

開催日時：令和6年5月8日（水）13:30～15:30

開催場所：日立市役所 503・504号会議室

出席委員数：28名中26名

I 委嘱状交付式

1 開 式

2 委嘱状交付

3 市長挨拶

- 今年度は、令和2年に策定した「第2期 日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の5か年の計画期間の最終年度であり、第3期総合戦略を策定することとなるため、国、県の動向を踏まえながら進めさせていただきたい。
- 地方創生の取組がスタートして10年が経過したが、人口減少問題は、日立市に限らず、全国的な問題になっている。
- 日立市は、市内に大手企業や中小企業が集積している「働くまち」であるが、近年、企業再編が著しく、働き手が市外に流出していることが、人口減少を加速させている。
- 県北地域は県内でも人口減少が著しいが、その中でも昼間の流入人口が約2万7,000人、流出人口約1万6,000人と、1日1万人以上多く通勤・通学のため日立市に来ており、県北地域における「働くまち」として大きな役割を果たしている。
- また、高齢化も進んでおり、日立市の高齢化率は33.5%となっているが、特に山側住宅団地の高齢化率は約50%と、市全体よりも高くなっている。
- 人口動態については、市長就任時には年間1,000人を超えていた社会減が、昨年は700人台に落ち着いたが、自然増減は、毎月200人程度死亡しており、出生者との差引きでは毎月150人程度の減少となっている。
- 転出先としては東海村やひたちなか市などの近隣市町村が多いが、学生などは東京圏に転出すると戻ってこない状況である。
- 平成21年に日立総合病院の地域周産期母子医療センターが休止し、お産ができなくなったことから、私の公約の一つとして、お産の再開に取り組ませていただいた結果、令和4年4月から日立総合病院の地域周産期母子医療センターを完全再開することができた。
- また、医療費の無料化など様々な子育て支援に取り組んでおり、令和5年4月からは給食費の無償化も実施しているが、なかなか人口減少に歯止めをかけることが難しい状況である。
- しかし、これは全国的な問題に加えて、本市の特殊性もあるので、御理解いただいた上で、これからの日立市の地方創生・人口減少対策はどうあるべきなのかについて、様々な意見を交わしながら考えていきたい。

- 市長就任時には、年間 1,000 人を超えていた出生者数も、昨年は 700 人台に落ち込んでしまった。私はこれを何とか 1,000 人台に戻したいと思っており、そのためにはどうすればいいのか委員の皆様のお知恵をお借りしながら頑張りたいと思っている。
- 非常に難しい問題であると認識はしているが、国や県などともしっかりと連携して取り組んでいきたいと考えているので、第 3 期の総合戦略が円滑に策定できるよう皆様の御理解と御協力をお願いしたい。

4 委員紹介（出席者 26 名紹介）

5 閉 式

II 有識者会議

1 開 会

2 日立市地域創生有識者会議設置要綱について

- 事務局より日立市地域創生有識者会議設置要綱について説明し、了承された。

3 会長の選出について

- 会長に茨城キリスト教大学副学長 池内耕作委員が選出された。

4 会長挨拶

- 第 2 期総合戦略策定時に引き続き会長を務めさせていただく。委員の皆様十分に御発言いただけるよう、進行してまいりたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

5 副会長の選出について（進行：会長）

- 副会長に日立市コミュニティ推進協議会会長 鈴木東男委員が選出された。

6 議 事（進行：会長）

- (1) 日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（資料 1）
 - (2) 国の動向（デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要）について（資料 2）
 - (3) 第 3 期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針について（資料 3）
 - (4) 日立市の人口動態と人口ビジョンの目標人口の見直しについて（資料 4）
- 事務局より、（資料 1）から（資料 4）に基づき、説明を行った。

【主な意見等】

- 会 長： 事務局の説明に対して、まずは御質問があれば御発言いただきたい。御意見は、御質問の後にいただく。今後、事務局から様々な案が上がってくるが、それに対する委員の皆様のお発言が様々な影響を与えていくことになるため、できるだけ全員

が御発言いただけるよう進めたい。

○委員： 合計特殊出生率について、平成22年以降、日立市が全国平均からかなり下回っているが、どのような影響によるものと認識しているか。

→事務局： 平成22年以降、20歳から39歳女性の未婚率が上昇するにつれて合計特殊出生率が低下していることから、女性の未婚率が影響していると考えられる。

○委員： 現行の総合戦略のKPIについて、難易度をどの程度として設定したのか伺いたい。達成度を把握する上でも重要な目線合わせだと思う。

→事務局： KPIについては、各事業担当課において、第2期総合戦略の計画期間（5年間）のうちに達成すべきと考える数値目標として設定した。第3期総合戦略におけるKPIについては、ある程度統一した達成度合を示すなど適切な設定となるよう検討したい。

○会長： 第3期総合戦略は、現行の第2期総合戦略から基本的な方向性は変わらず、そこに新たにデジタルの要素が加わるという事務局からの説明であったが、委員の中にデジタルに関連する方がいらっしゃるの、日立市と日立製作所が連携協定を結び進めている共創プロジェクト等についてお話をお伺いし、デジタルに関するイメージを持たせていただきたい。

○委員： 共創プロジェクトはグリーン産業都市の構築とデジタル医療・介護の推進、公共交通のスマート化の三つのプロジェクトが進んでいくが、具体的な取組はこれからである。

共創プロジェクトの観点を踏まえ、グリーン産業関係の企業を誘致し、雇用を確保していくことが必要ではないか。

転入者数を増やしていくことは難しいと考えられるため、出生率を上げることに重点を置いて、今後は施策を展開していくのが良いのではないか。

○会長： グリーン産業都市の構築とデジタル医療・介護の推進、公共交通のスマート化の3つの柱で進めていかれるということで、全て出生率や雇用などにつながっていく大切な話であり、第3期総合戦略の内容にも関係してくると思うので、今後も御意見をいただきたい。

○委員： 第3期総合戦略の名称について、国に合わせて変えるのではなく、市民に伝わりやすくするために「日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」から変えないことは、非常に良いと思う。

デジタル化というのは特別なことではなく、各職員の業務負担を減らしながら、住民に向き合う時間を増やすためのデジタル化という位置付けで取り組むと良いと思う。

各自自治体において、公共調達によってデジタル化を進めていくことに限界がきている。導入コストはデジタル田園都市国家構想交付金で支援されるが、維持費が自

治体の負担となるため、民間主導で地域のデジタル化を推進していくことも必要と考える。

○会 長： 公共調達で大きな政府でいくのか、小さな政府で民間に任せていくのか、その境目は大事な問題。維持費の問題もあるので、今後どのようにすべきかまで踏み込んだ御発言をいただければと思う。

○委 員： 災害が激甚化する中、デジタルを活用した効率的・効果的な監視体制や、市民が必要な情報をスマートフォン等ですぐに入手できる仕組みなどをどんどん取り入れ、災害対応に手厚いまちであることをPRすることで、日立市は東京都内から近くて環境も良いまちなので、住んでみたいと思う人も出てくると思う。

産業を興すことも重要だが、デジタルを使ってまちの品質を高めることが、人口減少対策の一つの突破口になったら良いのではないかと。

○会 長： デジタルは若者の話ではなく、高齢者にも自然に使われて初めてデジタル化であると思うので、世代論ではない。市全体の話として、いかに効率化できて、何かを進めようとするときに簡単にできるかという視点で、引き続き御意見をいただければと思う。

若い世代の委員の皆さんからも、専門的な話ではなくて良いので、総合戦略の策定に当たりどんなことを大事にしてもらいたい、あるいは普段感じているようなことがあれば教えていただきたい。

○委 員： 私の日立に対するイメージは、自然が多く、気候がちょうどよい、生活しやすい良い場所であるということ。かみね動物園をはじめ、当たり前だと感じていることが、日立の魅力であることに気付いていなかった。日立市は良いところがたくさんあるのに、それに気付いていない、発信しきれていないと思う。日立市のHPを見ても、移住や子育ての取組など様々な取組を行っているが、知らない情報が多い。

移住していただけるのが理想ではあるが、短期間でも日立市に定期的に足を運んでもらえるような魅力があると思うので、それに気付いてもらえるよう、いろいろな人に日立市の魅力を知ってほしい。

○委 員： 私は市外出身で、現在も市外に住んでいるが、学生たちは日立市などの出身者が多いので、日立市の話を知ると、とても過ごしやすそうだなと感じる。

実際に日立市に来ることで気付く良さもあると思うので、気付いてもらえるような情報発信の仕方も必要かと思う。日立市は転勤などで移住する方も多く思うので、移住してきた人に対しても、住みやすさや過ごしやすさなどを発信できると良いのではと思う。

○委 員： 日立市は温暖で食べ物もおいしく、印象は間違いなく良いが、移住を考えた場合にネックになるのが雇用の問題。雇用の問題が解決されると、移住する人はもっと増えるのではないかと感じている。

また、日立市は、夫の仕事の都合でキャリアを中断して移住してくる女性が多いが、再就職に当たって、前職のキャリアをいかして再就職できるよう企業とのマッチングを支援する仕組みや、子育てで10年くらい現場を離れると、デジタル化に対応ができなくなるなどの課題もあるので、市の講座等でフォローいただけると良いと思う。

○会 長： まち・ひと・しごとの特にしごとの部分についてですが、女性のキャリアの中断や課題については、本当におっしゃるとおりだと思います。市が既に実施しているかもしれないがとの話があったが、更にこうしてほしいというような御意見をいただければと思う。

○委 員： 戻りたいと感じられるまちづくりがとても大事ではないか。大学進学や就職のタイミングで日立市を離れる人が実際に多いが、日立市の雰囲気や自然等、外に出ることで気付く魅力が多くある。最近、日立商工会議所のSNSを見る機会があり、日立市にはこんな飲食店があるんだなど知るきっかけになっている。そういった投稿を見ていると、SNS側の設定で日立の魅力とかがお薦めとして出てくるなど、最近日立市の魅力について気付くことが多くなった。SNSなどでの発信を継続していくことが大事。

○委 員： 日立市の魅力を聞かれたときに、何もないと答えるのではなく、一つでも二つでも紹介できるような状態にしておくという意識を市民一人一人が持つことが大事ではないか。

若い世代の委員から、日立には意外と素敵なおところが多いという話がたくさん出ているので、昔から住んでいる人間は何もないということは禁句にして、日立市の良いところを一人一人が言えるような状態にしていくべきだろうと思うし、「のびゆく日立(小学校の教材)」などにも日立市の良いところを盛り込んでいくようなことも大事なのではないかと思っている。

○会 長： 「何もない」は禁句にしようということで、この場にいらっしゃる方はよろしくお願ひしたい。

○委 員： 観光分野と連携した取組やフィルムコミッションの活用等により、日立市の良さをPRすることで、交流人口や移住者を増やしていくことも必要。

○委 員： 出産・医療において日立総合病院が果たす役割は大きいですが、人材不足等により大病院はいずれも経営が厳しい状況である。

国はデジタル化を進めようとしているが、医療現場では導入に当たり課題も多々あるので、現場の意見をよく聞きながら進めてほしい。

○委 員： 市のPRは、ここ数年、テレビやCMのロケ地として日立市が活用され、市民の間で話題になるなど、いろいろ頑張っていると思う。

災害発生時に、開設している避難所や冠水している道路等の情報が、デジタル配信等で確認できると安心して暮らせるまちになるのではないかと思った。

子育て支援については、0～2歳など低年齢の子どもを対象とした支援は充実しているが、小・中学生対象の支援が少ないと感じている。例えば、部活動が少なくなった分、学外での活動に参加する際の送迎等の支援があると、更に子育てに優しいまちになるのではないかと思う。

○会 長： 災害対応については皆さんの関心事であるとともに、子育てについても低年齢の子どもに係る部分の支援は充実してきたが、学童などは仕事にも影響がある部分なので更に充実が必要ということだと思う。

今回、時間の都合で御意見を伺えなかった皆様については、次回会議で御意見を伺うのでよろしくお願ひしたい。

7 閉 会

以 上